

進学だより



2021年9月1日 vol.05



■ 入試がいよいよスタート！

大学・短大、専門学校の総合型選抜・AO入試を皮切りに、2022年度入試がいよいよ始まります。

志望校も定まり、3年生は入試に向け準備は進んでいるでしょうか？新型コロナウイルスの影響で、夏のオープンキャンパスも直前で中止になった学校もあり、十分な情報収集ができていない人も多いことと思います。オンライン・オープンキャンパスや各学校のHPなどを通じて、各学校の『入試科目』の傾向（過去問）や、過去の合格最低点、内容の詰まった『志望理由書』を作成するための情報など、できるだけ多くの情報を収集し、それを活用することで、志望校合格に近づいてください。

また、1・2年生にとっても、1年後、2年後の受験のために、興味・関心のある大学・短大、専門学校の2022年度の募集要項をHPなどで見てみてください。在学中に取得した資格・検定によって加点や受験科目が免除される入試、3年間の評定が良ければ受験料や入学金などが免除される制度、逆に、履修科目が不足している場合や評定が良くなければ受験できない入試、また部活動や生徒会活動、探究学習など高校での様々な活動が評価される入試などもあります。つまり、今知っていることが進路実現に近づくこと、逆に今知っていなければ進路実現が不可能になることも少なくはないことをぜひ理解し、学校生活など見直してみてください。

■ 秋から伸びる生徒の特長（大学受験パスナビより）

3年生にとっては夏までの基礎固めを経て、ここからどれだけ飛躍できるか重要な局面を迎える秋となります。秋から実力を伸ばし、希望する大学に合格を決める受験生は、学習・生活・メンタル面での取り組みにどのような特長があるのか紹介します。

秋からの学習プラン

- 受験日から逆算した時間管理ができる
- 受験日から逆算し学習の順序立てができる
- 弱点を知った上で学習プランを立てられる

難関大学に合格する生徒とは、試験当日までに着実に弱点を克服し力をつけた生徒です。受験は相対評価ですから、他の受験者より1点でも高ければ合格します。難関大学に合格する生徒は、決められた期日までに求められる力を身につける「見通し」を持っていると思います。そのためには受験までに時間がどれくらいあるのか、志望校が求めるレベルはどの程度なのか、いつまでに基礎を身につけ、応用に入るのかを考えている生徒が多いです。そしてそのような生徒は、自分の弱点やまだ学習が不十分な箇所もよくわかっています。

秋からの共通テスト対策

- 基礎知識を前提に、思考過程を重視する
- 演習を繰り返し、時間配分や形式に慣れる
- 2次試験対策につながる意識を持つ

共通テストは、知識や解法を理解した上でそれらを活用する力や思考プロセスが問われます。思考力・判断力・表現力とともに、複数の資料から必要な情報を読み取り、分析・整理する情報処理能力も問われます。演習では、はじめは制限時間を決めずにじっくり解き、知識・技能の定着を図りましょう。その後、時間内に解く練習とマークシート形式に慣れる練習を重ねます。マークシート形式の場合でも、答えを塗るだけでなく、思考プロセスをノートなどにメモしておきましょう。論理的思考力や表現力が問われる2次試験対策につながります。

2次試験対策

- 過去問の前に基礎固めと苦手克服をする
- 論理的思考力・記述力を身につける
- 過去問を計画的・効果的に活用する

2次試験対策として過去問の活用は大切ですが、まったく歯が立たないようでは時間の無駄です。まずは、過去問を解くための前提となる知識を身につけることを優先しましょう。ただし、秋の早い段階で一度過去問を見ることによって傾向をつかむことは必要です。そして、ある程度力がついてきたら過去問を繰り返し解けば、頻出分野が見えてきます。2次試験までに、最低でも5年分は過去問に取り組むように計画を立てましょう。その際、時間配分や「どの問題で何点得点できるか」など細かく分析し、記述問題は添削指導を受けることも大切です。

秋からの生活

- 「スキマ時間」を「学習時間」に変える
- 脳と体を本番の試験時間に合わせる
- 睡眠時間はしっかり確保する

受験は「あと1分」「あと1点」の積み重ねで成功と失敗が分かれます。日ごろ早起きでまずポーツとしていませんか？ そんなスキマ時間も、積算すると結構な時間になるものです。また、「4時間睡眠の人は合格し、5時間睡眠の人は失敗する」と言われた時代もありましたが、それも今は昔。睡眠時間が短いほど勉強ができるという事実はなく、むしろ朝型の人は成績上位層が多いという統計があります。夜にしっかり頭をリフレッシュして、本番の入試が行われる時間帯に最も集中力が持続する脳と体にする。これが秋以降に守ってほしい生活習慣です。

メンタル

- 不安な気持ちとうまく付き合っている
- 適度な気分転換でストレスを解消している
- 体調管理など生活習慣に気をつけている

受験勉強で抱える不安やストレスは、受験生が抱える心の問題として入試が終わるまで続くものです。しかし合格者の多くは、このことをポジティブに受け入れてストレスを溜めないようにしています。成績は相対的なものなので、成績が上がらないように見えるだけで、学力は着実に付いています。この踏ん張りどころで挫折せずに頑張りましょう。あまりにもストレスが大きい場合は、休養をとるべきです。合格者はメリハリのある行動をとることが上手です。また体調不良は精神不良を招きますので、生活習慣を崩さないようにしましょう。